

1 いじめの定義といじめに対する本校の基本認識

第2条 いじめの定義

いじめとは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

（「いじめ防止対策推進法」・平成25年）

上記の考え方のもと、本校ではすべての教職員が「いじめは、どの学校・どの学級でも起こりうる」という認識を持っていじめ問題に対応しなければならない。とりわけ、特別支援学校である本校には、障害の特性や状態に加えて年齢差もあり、様々な実態の児童生徒が在籍している。障害特性をその児童生徒の「理解が必要な個性」としてとらえ、どの個性も認め尊重し合う校風をつくっていく必要がある。

一方、学校以外の地域社会においては、本校児童生徒はいじめられる側になりやすい傾向がある。そのため、自分の人権を守り、主張できる姿勢を育てる必要がある。

<いじめ防止のための基本姿勢>

- ①いじめを許さない、見過ごさない雰囲気づくりに努める。
- ②児童生徒の自己有用感を高め、自尊感情を高める教育活動を推進する。
- ③いじめの早期発見に努める。
- ④いじめの早期解決のために、学校内だけでなく専門家とも協力して解決にあたる。
- ⑤学校と家庭が協力して、事後指導にあたる。

2 いじめの未然防止のための取り組み

児童生徒一人一人が認められ、お互いに相手を思いやる温かい雰囲気づくりに学校全体で取り組む。また、教職員はすべての児童生徒が授業に参加でき、授業場面で活躍できるための授業改善を行う。そして「いじめは絶対に許されないことである」ということを、教育活動全体を通じて児童生徒に指導する。

(1) いじめを許さない、見過ごさない雰囲気づくりに努める。

児童生徒会を中心としたあいさつ運動などを基本に、明るい雰囲気づくりを進める。また、他学部の児童生徒についても理解を深め、学校行事などの場面でお互いに応援しあう温かい雰囲気の学校をつくる。

(2) 児童生徒一人一人の自己有用感を高め、自尊感情を育む教育活動を推進する。

基本的な生活習慣や豊かな心を身に付けるとともに、他者とのコミュニケーションが築ける児童生徒を育成する。いろいろな活動を通して自分と他人とでは、思いや考えが違うことを知り、その中で他人の役に立ったり、他人から認められたりする経験を通して自己有用感や自尊感情を育む。また、さまざまな学校行事や他校との交流活動などを通して、コミュニケーション力を育成する体験活動を推進する。

3 いじめの早期発見・早期解決に向けた取り組み

(1) いじめの早期発見のための取り組み

- ①「いじめは、どの学校でもどの児童生徒にも起こりうるものである。」という基本認識に立ち、

すべての教職員が児童生徒の様子を見守り、日常的な観察を丁寧に行うことにより、児童生徒の小さな変化を見逃さない。

- ②様子がおかしいと感じた児童生徒がいる場合は、学部会や職員会議などの場で気づいたことを共有し、より多くの教職員の目で当該児童生徒を見守る。
- ③児童生徒の様子に変化がみられる場合には、教職員が積極的に働きかけを行い、児童生徒に安心感を持たせるとともに、解決すべき問題がある場合は当該児童生徒から悩み等を聞く。
- ④「いじめに関するアンケート」を年2回行い、児童生徒の悩みや人間関係を把握する。

(2) いじめの早期解決のために、全職員が一致団結して問題の解決にあたる。

- ①いじめ問題を発見した場合、学級担任だけで抱え込むことなく、学校長以下すべての教職員が対応を協議し、的確な役割分担をしていじめの問題解決にあたる。
- ②情報収集を綿密に行い、事実確認をした上で、いじめられている児童生徒の身の安全を最優先に考え、いじめている側の児童生徒に対しては、毅然とした態度で指導にあたる。
- ③学校内だけでなく教育委員会、児童相談所、警察などと協力して解決にあたる。
- ④いじめられている児童生徒の心の傷を癒すために、養護教諭や校医と連携を取りながら指導を行う。

(3) 家庭と連携した取り組み

いじめ問題が起きた時は家庭との連携をいつも以上に密にし、学校側の取り組みについての情報を伝えるとともに、家庭での様子や友達関係についての情報を集めて指導に活かす。

(4) 教育相談体制の整備

- ①児童生徒が保健室利用時に養護教諭が聞き取りを行う。
- ②担任、指導課員等が聞き取りを行う。

4 いじめ問題に取り組むための組織

(1) 学校内の組織

①「指導課」

各学期に1回、各学部の教職員に「いじめ兆候チェックシート」を配付し、調査を行う。

②「学部会」

月1回及び臨時の学部会で、児童生徒について現状や指導についての情報交換、および対応について共通理解する。

③「職員会議」

月1回全教職員で児童生徒について、現状や指導についての情報交換、および対応についての話し合いを行う。

④「いじめ問題対策チーム」

いじめ防止に関する措置を実行的に行うため、校長、教頭、部主事、生徒指導主事、指導課人権教育担当、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、当該担任による「いじめ問題対策チーム」を設置する。「いじめ問題対策チーム会議」は、各学期1回定期的に、また必要に応じて臨時に開催する。

いじめの相談があった場合には、事実関係の把握、関係児童生徒・保護者への対応について協議して行う。なお、いじめに関する情報は、児童生徒の個人情報の取り扱いに考慮し、本校の教職員が共有するようにする。

5 家庭、地域との連携

- ・日頃から、連絡帳・電話・家庭訪問・通信等を通して保護者との連携を密にして、保護者から相談を受けたり、情報を提供したりしやすい雰囲気づくりに努め、いじめ指導に対する理解と協力を得る。
- ・ネットいじめの防止に向けて、保護者に学級懇談等を通してネットにつながる機器やSNSの危険性について話題を出して注意を呼びかける。
- ・いじめ防止基本方針を学校ホームページで公開し、地域住民を巻き込んで、地域ぐるみの防止対策を推進する。

6 重大な事案への対処

いじめにより重大な事案が発生した場合は、その場で適切な処置をとるとともに部主事、または教頭に報告する。その後、校長の指示により、迅速に「緊急いじめ問題対策チーム会議」を開催し対応する。なお、「緊急いじめ問題対策チーム」のメンバーは、校長、教頭、部主事、生徒指導主事、育友会会長である。

＜重大な事案と想定される例＞

- ①いじめにより児童生徒の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがある場合
 - ②いじめにより児童生徒が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがある場合
- ・重大な事案が発生した場合は、学校で抱え込むことなく、速やかに教育委員会へ報告し、問題の解決に向けて指導助言等を受ける。
 - ・必要に応じて児童相談所、警察等の関係機関と連携し、学校として組織的に対応する。
 - ・いじめを受けた児童生徒や保護者に対し、重大事態の事実関係等その他の必要な情報を適切に提供する。

7 インターネットを通じて行われるいじめへの対応

(1) ネットいじめの未然防止・早期発見について

- ①児童生徒が悩みを抱え込まないように、児童生徒が相談しやすい環境作りが重要である。
- ②児童生徒の実態に応じた情報モラル教育を進めるとともに、保護者においても学部・学級懇談、学校からのたより等で理解を求めていく。
- ③保護者に対しては、必要に応じて児童生徒に携帯電話等を所持させる場合、フィルタリングサービスの利用を徹底するように理解を求めていく。

(2) ネットいじめの対応について

ネットいじめの対応にあたっては、その性質上から、迅速で適切な対応が求められる。

- ①インターネット上の不適切な書き込み等については、被害の拡大を防ぐために、直ちに削除の措置をとる。
- ②名誉毀損やプライバシー侵害等があった場合は、プロバイダ等に対して速やかに削除を求め、必要に応じて警察や地方法務局の協力を求める。
- ③児童生徒の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるおそれがある時は、直ちに警察署に通報し、適切な援助を求める。

8 教職員の資質能力向上

「いじめは、どの学校でもどの児童生徒にも起こりうるものである。」という認識を持って、全教職員が児童生徒と向き合い、いじめの防止に取り組める資質能力が身につけられるようにするために、いじめ対応アドバイザーを招聘し、校内研修会を行う。

9 取り組み内容の点検

いじめ防止基本方針について「いじめ問題対策チーム会議」を中心に、必要に応じて見直しを行う。

10 いじめ対策年間計画

	4月	5月	6月	7月
教職員対象	職員会議 学部会 学級づくり	職員会議 学部会	職員会議 学部会 いじめ兆候チェックシートによる調査① いじめ問題対策チーム会議①	職員会議 学部会
児童生徒対象	学習規律やルールの確認	あいさつ運動 部活動 全校集会 運動会	あいさつ運動 部活動 ふれあい奉仕活動 いじめアンケート①	あいさつ運動 部活動
保護者対象	情報交換 下旬 (保護者懇談) 授業参観	運動会	情報交換 上旬 (保護者懇談)	ホットネット大作戦Next① (パンフレット配布) 学校公開 (授業参観)
	8月	9月	10月	11月
教職員対象	職員会議 学部会	職員会議 学部会	職員会議 学部会 いじめ兆候チェックシートによる調査②	職員会議 学部会 いじめ問題対策チーム会議②
児童生徒対象	全校登校日 平和教育	あいさつ運動 部活動	あいさつ運動 部活動 全校集会 学部間交流 文化祭	あいさつ運動 部活動
保護者対象		グッドマナーキャンペーン 情報交換 下旬 (保護者懇談)	文化祭	ホットネット大作戦Next②学習会 (育友会役員) 学校公開 (授業参観)

	1 2月	1月	2月	3月
教職員対象	職員会議 学部会	職員会議 学部会 いじめ兆候チェック シートによる調査③	職員会議 学部会 いじめ問題対策 チーム会議③	職員会議 学部会
児童生徒対象	あいさつ運動 人権教育 部活動	あいさつ運動 学部間交流 部活動 いじめアンケート②	あいさつ運動	1年の振り返り
保護者対象		育友会懇談会	情報交換 下旬 (保護者懇談)	情報交換 初旬 (保護者懇談)

<主な相談機関>

相談機関名	電話番号	受付時間
石川県教育委員会 24時間子供SOS相談テレホン	076-298-1699	24時間受付
子どもの人権110番 (金沢地方法務局)	0120-007-110	月～金 8:30～17:15
いじめ110番 (県警少年サポートセンター)	0120-617-867	24時間受付
石川県南加賀保健福祉センター地域支援課	0761-22-0792	月～金 8:30～17:45
加賀市「のぞみ」(小中)	0761-73-0118	月～金 8:30～17:30
やすらぎ加賀教室(高) (加賀聖城高校内)	0761-72-3220	月～金 9:00～16:00
ファミリーステーションいなみえん (児童家庭支援センター)	0761-75-8889	月～土 9:00～17:00